

# 會 務

第 21 卷 第 1 號 昭和 10 年 1 月

## 役 員 會

### 第 11 回 役員會

開催日	昭和 9 年 12 月 10 日						
出席者	會長	久保田敬一君					
	副會長	米元晋一君	草間	偉君			
	常議員	内海清温君	衣斐清香君	河原直文君			
		金森誠之君	鈴木雅次君	永田民也君			
		野口寅之助君					
	常議員兼主事	古川淳三君	同主計	佐藤利恭君			
	同編輯長	田中豊君					
	前會長	古川阪次郎君	岡野昇君	中川吉造君	那波光雄君		
		名井九介君					

#### 決議並に報告事項

#### 決 議

1. 昭和 10 年度役員改選に伴ふ定款第 41 條に依る昭和 9 年度常議員中 1 名退任の件は抽籤の結果永田民也君退任と決定せり。
2. 昭和 10 年度中の入會者に對し入會金を免除することに決議せり。
3. 昭和 10 年度收支豫算は原案の通り決定せり。
4. 入退會の件  
大坪喜久太郎君外 8 名を會員に伊木茂君外 36 名を准員に有江義晴君外 46 名を學生員として入會を承認し准員小川清君外 1 名を會員に轉格承認せり。

#### 報 告

5. 20 周年記念廣告募集に關し経過を報告せり。
6. 會長久保田敬一君よりラヂオ受信機 1 臺寄贈ありたり。
7. 日本工學會理事長に眞野文二君就任せられたる旨同會より報告ありたり。
8. 故古市公威男染井墓所へ本會より寄贈の玉垣一式は完成せり。

## 編 輯 委 員 會

### 第 12 回 編輯委員會

開催日	昭和 9 年 12 月 10 日						
出席者	編輯長	田中	豊君				
	委員	龜田	素君	末森	猛雄君	中原	壽一郎君
		福田	武雄君	星野	茂樹君	堀越	一三君

#### 協議事項

1. 第 20 卷第 11 號所載論說報告に對する討議依頼先を決定す。

2. 第 20 卷第 11 號所載工事寫眞, 論說報告, 彙報, 參考資料に對する謝禮を決定す。  
 3. 第 21 卷第 1 號に下記を追加す。

論說報告: The Application of the Theory of Influence Equations for the Analysis of Secondary Stresses in Truss Bridge. 准員 マスターオブサイエンス 御厨忠文

彙報: 丸子橋鐵部工事報告 (前回論說報告に決定せるも彙報欄に変更)

飛越線建設概要  
 熱海線工事概要

准員 工學士 綾 龜 一  
 會員 工學士 小林紫朗  
 會員 工學士 高井信一

特許抄録: 堅坑底部の押壓装置, 電氣淨水装置  
 耐震家屋構造, 乳劑用タール及び同カットバック・タールの製造法  
 耐震支材

4. 第 21 卷第 2 號登載論文を下記の通り決定す。

論說報告: 鑄鐵管に於ける流量に就いて	會員 工學士 池田篤三郎
撓角分配法に依るトラスの 2 次應力計算法に就て	會員 工學博士 鹿部屋福平
踏切看守勤務制の改正	會員 工學士 岡部二郎
瑞穂橋工事概要	會員 工學士 天埜良吉
平齋線嫩江橋梁の吊掛式鋼桁架設法に就て	准員 工學士 龍野繁太郎
特殊架構論	准員 工學士 横道英雄
討 議: 隧道工事に對してセメント注入の應用	會員 M.S. 鶴田勝三
係數曲線に據る調整池諸問題の解法	會員 榎本卓藏
同 上	著者 會員 工學士 松野辰治
彙報: 志戸坂隧道開鑿工事	會員 工學士 三宅發造
木曾發電妻籠發電所工事概要	會員 石川榮次郎
砲夷彈に對する認識	
參考資料: 地震及び風荷重に對する合理的設計	(糸川一郎)
Schaechterle 式模型試驗法による 2 絞ラーメン彎曲率	(内山實)
橋梁工に於けるニッケル鋼の使用	(奥田秋夫)

5. 第 12 號體裁に關する件

6. 昭和 9 年度優秀論文に關する件

種々協議の結果下記 8 論文を優秀論文の候補として選擇せり。而して次回委員會に於て 1 著者 1 論文を選擇推薦する方針の下に更に各委員に於て審査する事とす。

記

第 2 號 走行蒸氣機關車に因る橋桁強制振動の理論 (第 3 編)	會員 工學士 小澤久太郎
第 3 號 上水道に於ける二重濾過の實驗的考察	會員 島崎孝彦
第 5 號 土讚北線吉野川橋梁のケーブル・エレクションに就て	會員 工學士 淺間逸雄 〃 〃 稻石洋八郎
第 7 號 係數曲線に據る調整池諸問題の解法	會員 工學士 松野辰治
第 9 號 光彈性に關する研究	會員 工學博士 久野重一郎
第 10 號 軌條の挫屈に就て	會員 工學博士 堀越一三
〃 走行自動車に因る橋桁強制振動の理論	會員 工學士 小澤久太郎
第 11 號 長柱の挫屈と之に及ぼす彈性橫抵抗の影響並に鐵道軌道の張出に關する新考察	會員 工學博士 稻田隆

## 關西地方風水害調査委員會

### 第 1 回 委 員 會

開催日 昭和 9 年 11 月 28 日

出席者 委員長 中川吉造君  
 副委員長 青山士君 平井喜久松君  
 委員 赤木正雄君 井上隆根君 河口協介君 近藤泰夫君  
 鈴木雅次君 關信雄君 高橋三郎君 谷口三郎君  
 野口寅之助君 萩原俊一君 平瀬三雄君 平山復二郎君  
 三浦七郎君 吉岡計之助君  
 幹事 宮本武之輔君 古川淳三君  
 副會長 米元晋一君 草間偉君

(1) 關西地方風水害調査委員會要綱下記の通り決定せり。

#### 關西地方風水害調査委員會要綱

1. 本委員會は昭和 9 年 9 月 21 日近畿地方に襲來したる大颱風に因る風水害に關する調査を行ふを以て目的とす。
2. 本委員會に委員長 1 名、副委員長 2 名、委員及幹事各若干名を置く。
3. 本委員會に下記の部門を設け各部門に主査を置く。
  - 第 1 部 氣象、被害概況
  - 第 2 部 河川、運河、灌漑、砂防
  - 第 3 部 港灣、海岸
  - 第 4 部 道路、道路橋
  - 第 5 部 鐵道、軌道 (沿線電氣工作物を含む)、鐵道橋
  - 第 6 部 電氣工作物
  - 第 7 部 土地、建築物
  - 第 8 部 上下水道其他
4. 本委員會に囑託を置くことを得。
5. 本委員會の調査項目次の如し。
  - (イ) 被害の原因
  - (ロ) 被害の狀況
  - (ハ) 被害金額又は復舊工事費
  - (ニ) 災害対策の研究
6. 委員長、副委員長、委員、幹事次の如し (敬稱を略す)
 

委員長 中川吉造  
 副委員長 青山士 平井喜久松  
 幹事 古川淳三 宮本武之輔 青木楠男 青山秀雄

主査及委員

  - 第 1 部 (氣象、被害狀況)
 

主査 山田隆二  
 委員 關信雄 宮本武之輔
  - 第 2 部 (河川、運河、灌漑、砂防)
 

主査 谷口三郎

委員	赤木正雄	上田柳一	岸田正一	後藤季總	坂本助太郎
	島重治	菅良二	杉浦翠	高西敬義	寺田甫
	中川幸太郎	長谷川勝伍	村瀬吉雄	福留並喜	三宅發造
	三輪周藏	物部長穂	山内喜之助	吉岡計之助	

## 第3部 (港灣, 海岸)

主査	鈴木雅次				
委員	荒木文四郎	内山新之助	上田柳一	岡部三郎	岸田正一
	後藤季總	坂本助太郎	菅良二	關信雄	高西敬義
	寺田甫	中川幸太郎	榊澤惟介	長谷川勝伍	三宅發造
	三輪周藏	村瀬吉雄	山内喜之助	吉岡計之助	

## 第4部 (道路, 道路橋)

主査	三浦七郎				
委員	青木楠男	上田柳一	岸田正一	後藤季總	近藤泰夫
	佐藤利恭	島重治	菅良二	田中豊	高田景
	高橋逸夫	中川幸太郎	永田年	長谷川勝伍	福留並喜
	三宅發造	三輪周藏	村瀬吉雄	物部長穂	吉岡計之助
	寺田甫				

## 第5部 (鐵道, 軌道, 鐵道橋)

主査	井上隆根				
委員	石田二郎	石塚宇吉	伊東祐介	小坂進	兒島重次郎
	佐藤利恭	佐藤鼎	清水照	田代瑞穂	田中憲造
	出島嘉吉	野田林太郎	橋口行彦	平瀬三雄	平山復二郎
	古谷晋	松島寛三郎	山田隆二	青山秀雄	

## 第6部 (電氣工作物)

主査	野口寅之助			
委員	石井顯一郎	高橋三郎	萩原俊一	

## 第7部 (土地, 建築物)

主査	田中豊				
委員	青木楠男	榎木寛之	高田景	高橋逸夫	三輪周藏
	物部長穂	吉岡計之助			

## 第8部 (上下水道其他)

主査	河口協介			
委員	近藤博夫	島崎孝彦	高田景	

## (2) 調査地域

大阪府 京都府 兵庫縣 和歌山縣 岡山縣 奈良縣 鳥取縣 鳥根縣 高知縣 香川縣 徳島縣

## (3) 鐵道の調査は線別とすること。

## (4) 各部門に囑託2名置くこと。

## (5) 調査事務擔掌する必要がある場合主査の申出でにより委員を追加依頼すること。

## (6) 各部に於て調査せる材料は昭和10年8月中に取纏め委員長まで報告すること。

## (7) 調査様式其他協議の爲12月14日(金曜日)主査委員會を開催すること。

## 第1回 主査委員會

開催日 昭和9年12月14日

出席者 委員長 中川吉造君  
 副委員長 青山士君 平井喜久松君  
 主査委員 井上隆根君 河口協介君 鈴木雅次君 谷口三郎君  
 三浦七郎君 山田隆二君  
 幹事 青山秀雄君 古川淳三君 宮本武之輔君  
 會長 久保田敬一君

#### 協議決定事項

1. 調査表を第1號表（總括表）と第2號（箇所別表）とに分つこと。
2. 總括表は河川、道路路線（橋梁を含む）鐵道線路、港灣別に被害總額（國庫補助關係及び府縣單獨負擔を含む）を記入すること。
3. 箇所別表は1箇所被害額5000圓以上とし技術上興味ある特殊のものは5000圓未満にても採擇すること。
4. 各委員には調査區域を指定して依頼すること。
5. 調査表發送先及部數は各主査よりの報告を俟つて學會より依頼狀を添へて發送すること。
6. 調査表は各委員より昭和10年4月中に取纏め主査に提出せらるゝ様依頼すること。
7. 調査表記入例は各主査に作製方を依頼すること。

### 維新以前日本土木史編纂委員會

#### 第23回委員會

開催日 昭和9年12月20日

出席者 副委員長 眞田秀吉君  
 委員 江澤甚一君 前川實一君 安藝杏一君 久野直君  
 小川織三君 眞島健三郎君 牧彦七君 名井九介君  
 伴宜君 榎木寛之君  
 囑託 渡邊俊一君

#### 決議事項

(1) 目錄を整理し置くこと。

其他編纂に關し種々協議を遂げ散會せり。

### 土木學會關西支部記事

昭和9年12月4日午後5時30分より中央電氣俱樂部に於て第9回役員會を開催し支部長松島寛三郎君外11名出席下記事項を協議せり。

#### 協議事項

1. 昭和10年度豫算の件
2. 昭和10年度大會の件
3. 昭和10年度役員候補者推薦有志者の件
4. 幹事長辭任の件

5. 本部 20 周年記念事業の件
6. 支部記念事業の件
7. 本年忘年晚餐會の件

## 日本工學會記事

昭和 9 年 11 月 27 日午後 4 時 30 分より日本工業俱樂部に於て日本工學會評議員會を開催し下記事項が決議せられ次で一般會務の報告ありたり。

### 1. ケルビンメダル受賞候補者選定の件

前回(9 月 27 日)開催の評議員會の決議に基き英國ケルビン賞委員會より 1935 年度に於て授賞すべきケルビン賞受領候補者推薦方に關し關係 12 學會に依頼し置きたる處理學博士本多光太郎氏推薦の學會は 6 學會推薦見合及本會一任の學會は各 3 學會なりしにより本會に於ては理學博士本多光太郎氏を右受賞候補者として選定し早速右委員會に對し推薦することに決したり。

### 2. 昭和 9 年度職員年末手當支給に關しては理事に一任することとせり。

昭和 9 年 12 月 3 日午後 4 時 30 分より日本工業俱樂部に於て日本工學會評議員會を開催し下記の事項を決議せり。

### 1. 理事長補選の件

機械學會選出眞野文二君當選就任せり。

## その他の記事

○昭和 9 年 12 月 6 日工政會並に帝國鐵道協會主催の映畫會(白耳義アントワープ市エスコー河底横斷人車道用隧道工事實況)へ 100 名限り本會々員の參觀承諾を得て東京府及隣接縣在住會員に參觀方の通知をなせり。

○昭和 9 年 12 月 24 日昭和 9 年度會員名簿を全會員に配布せり。

○昭和 9 年 12 月 10 日までに於て下記諸君を入會又は轉格の手續を了し名簿に登録せり。

### 入 會 會 員

大坪 喜久太郎君	小野 寺啓 治君	酒 井 忠 明君	成 田 直 三 郎君
松 井 昌 雄君	眞 井 耕 象君	森 菊 市君	茂 木 亮 策君
保 科 實 雄君			

### 入 會 准 員

伊 木 茂君	井 上 住 男君	伊 藤 千 代 吉君	石 原 常 次君
鶴 飼 義 信君	上 田 利 八君	内 田 裕君	瀧 地 主 一君
柿 原 廣君	金 巳 相君	嵯 峨 山 富 士 男君	佐 野 誠 三君
芝 久 治君	高 田 庭 和 龜君	高 橋 寛君	内 藤 繁 雄君
長 塚 藤 太 郎君	橋 爪 廣 三 郎君	平 野 勤君	藤 野 義 男君
福 留 民 男君	福 田 利 一君	武 道 國 三 郎君	村 林 保君
三 上 三 郎君	安 田 伊 三 郎君	八 束 利 敬君	山 崎 武君
田 中 裕 富君	中 谷 茂 壽君	山 内 寛 一君	酒 井 一君

東 善 郎君 村 井 雅 敬君 下 平 卓 三君 淺 野 八 十 吉君  
 川 添 三 男君

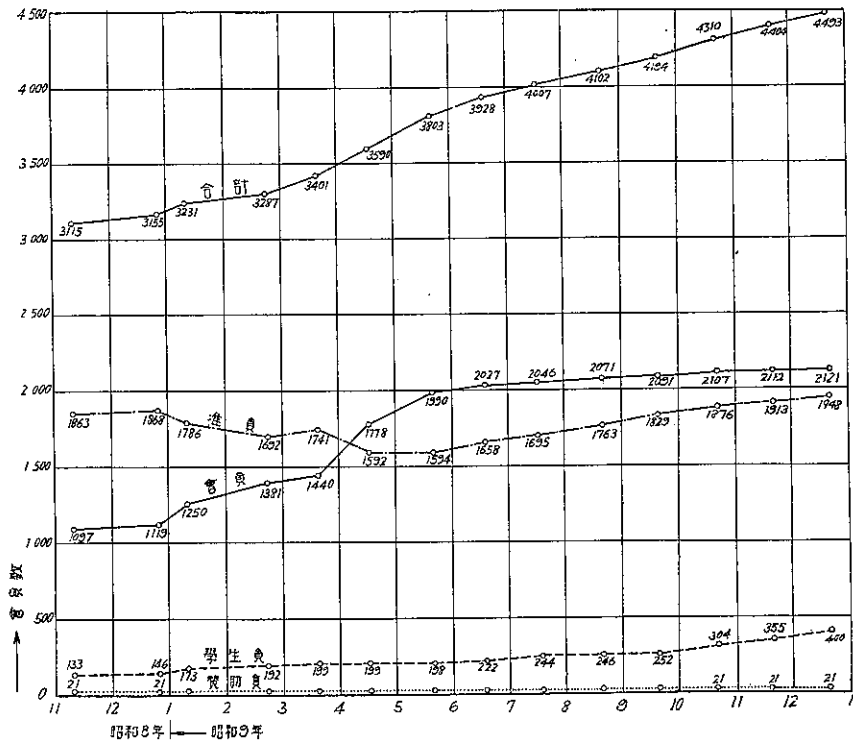
入 會 學 生 員

有 江 義 晴君	今 井 琢 磨君	板 會 正 治君	尾 上 哲 介君
加 藤 靜 雄君	木 崎 政 之 助君	小 林 嘉 道君	道 祖 土 良 一君
庄 野 勝 君	須 藤 靖 君	高 橋 豐 君	寺 島 重 雄君
鳥 井 推 太 郎君	中 島 正 治君	野 見 山 太 君	平 田 寬 君
藤 原 正 明君	宮 田 和 正君	諸 橋 溼 治君	山 下 源 松君
渡 邊 清 藏君	橋 洋 太 郎君	星 川 信 喜君	泉 水 孝 作君
竹 內 近 雄君	本 間 良 一君	山 科 三 郎君	池 上 武 男君
石 倉 寬 治君	尾 崎 登 君	大 串 滿 馬君	大 塚 芳 男君
河 合 秋 一君	古 賀 哲 君	鶴 賢 一 郎君	中 野 健 治君
長 江 久 男君	西 村 清 之 進君	根 來 幸 次 郎君	平 島 博 希君
古 川 通 泰君	三 好 忠 君	揚 一 甲 君	山 本 匠 君
久 原 中 吾君	日 高 貞 雄君	東 正 久 君	

轉 格 會 員

小 川 清 君 友 岡 正 介 君

會 員 移 動 一 覽 圖 表



○昭和9年12月中に於て寄贈又は交換を受けたる雑誌下記の如し

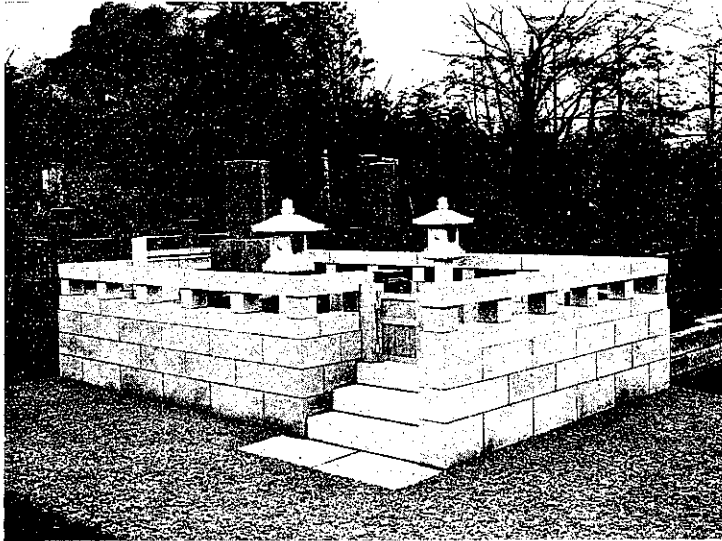
土木建築雑誌	第13卷 第12號	シビル社	儒教思想と政治問題とに關する史的考察	第53回講演集	啓明會
機械學會誌	第37卷 第252號	機械學會	早稲田建築學報	第11號	早稲田大學理工學部建築學教室 草苗會
東京工業大學一覽	自昭和9年 至昭和10年	東京工業大學	東京土木建築業組合報	第7卷 第12號	東京土木建築業組合
工學	No. 224.	東京工學社	建築雜誌	第48輯 第593號	建築學會
衛生工業協會誌	第8卷 第11號	衛生工業協會	工學部紀要	第3冊 第7號	北海道帝國大學
エンジニア	第13卷 11月號	都市工學社	日立評論	第17卷 第12號	日立評論社
工事畫報	第10卷 12月號	工事畫報社	水曜會誌	第8卷 第6號	水曜會
港灣	第12卷 第12號	港灣協會	建築社會	第18卷1號新年號	日本建築協會
Proceeding	November 1934	American Society of Civil Engineers.	工人	NO. 151.	日本工人俱樂部
玉工同窓會員名簿	昭和9年10月1日現在	攻玉社玉工同窓會	日本鑛業會誌	第50卷 第596號	日本鑛業會
都市問題	第19卷 第6號	東京市政調査會	鐵道技術	第9卷 第1號	鐵道技術社
洋銀の鑄造法		日本ニッケル情報局	玉工	第7卷 第6號	攻玉社玉工同窓會
沖電氣時報	VOL. 1. NO. 6.	沖電氣株式會社	稻工會雜誌	第17號	早稲田高等工學校稻工會
國立公園	第6卷 第12號	國立公園協會	セメント工業	昭和十年一月	セメント工業社
電氣學會雜誌	第54卷第12冊 第557號	電氣學會	造船協會雜纂	第152號	造船協會
鋼橋の理論と計算	第四卷	コロナ社	建築雜誌	第48輯 第592號	建築學會
三菱電機	第10卷 第9號	三菱電氣株式會社	會務彙報	第37號	日本土木建築請負業聯合會
工政	176號	工政會發行	宮津港擴張計畫概要	昭和9年11月	港灣協會
東京工業大學學報	第3卷 第11號	東京工業大學	小濱港修築計畫概要	昭和9年11月	港灣協會
日本建築士	第15卷 第6號	日本建築士會	Inouye commemoration volume	旅順工科大學	
工業現勢	第3卷 第12號	東京工業大學工業調査部	工人	第152號	日本工人俱樂部
地震觀測報告	昭和9年第2冊	東京帝國大國地震研究所	衛生工業協會誌	第8卷 第12號	衛生工業協會
地震研究所彙報	第12號 第4冊	東京帝國大學	資源	第5卷 第1號	資源局
鑄物	第6卷 第12號	日本鑄物協會	工學院同窓會誌	第37卷 第1號	工學院同窓會
帝國學士院紀事	第10卷 第9號	帝國學士院	國立公園	第7卷 第1號	國立公園協會
セメント界彙報	第321號 創立滿20周年記念號	日本ポルトランドセメント同業會	鐵と鋼	第20年第12號	日本鐵鋼協會
			業務研究資料	第22卷第42號43號	鐵道大臣官房研究所
			水道協會雜誌	第12號	水道協會

○死亡會員

會員 星野一太郎君は昭和9年6月、北原嶸君は昭和9年11月逝去せられたり、本會は恭しく哀悼の意を表す



## 故古市公威男墓所全景



故本會第1回會長工學博士男爵古市公威閣下の墓所へ玉垣一式を寄贈することとし其の設計を東京美術學校教授森井健介君に依頼し工事中のところ昭和9年12月上圖の如く完成せるを以て本會より副會長米元晋一君、前會長中川吉造君、同名井九介君、會員伊藤長右衛門君墓前に參拜寄贈の報告をなせり。



青山  
士

會長  
工學士  
青山 士



草間  
偉

副會長  
工學博士  
草間 偉



平井  
喜久松

副會長  
工學博士  
平井喜久松

# 就 任 の 挨拶

會 長 工 學 士 青 山 士

此度選舉即ち會員たる皆様の御推薦によりまして本會會長の榮職に就くことになりましたことは不肖小生にとりまして望外の幸で無上の光榮とする所で御座います。

固より淺學菲才夫れに加へて職務頗る多端でありますが故に自ら其職責を果し得るや否や懸念に堪へない次第であります。會員各位及び職員各位の御支持、御援助により、御指導御鞭撻によりまして諸先輩の始められ又築き上げられたる學會の内容を其の量に於て又其の質に於て充實増進し其の品格をより權威あるものと致し度いと存じます。是には大先輩の圓熟せる重味と新進の尖鋭なる英氣とが緊密融合することが必要と存じます。

之に加へて國家人類の生存發達に缺くべからざる技術、其の技術を基調とする爾餘の學會との連衡を計つて大に國家社會に貢獻すると同時に技術者に殘されたる技術者對社會に就ての疑問の解決に向つて努力致し度く之にも亦各位の御支持御援助を御願ひ致す次第で御座います。

---

## 雜誌閱覽に就ての會告

別記の寄贈並に交換雜誌は本會事務所に備付置候間御希望の向は下記時間内御隨意に御閱覽相成度候。

### 閱 覽 時 間

日曜日及祭日休、土曜日自午前9時至午後4時、其他自午前9時至午後8時。  
但し役員會、委員會等開催の日は御斷り致すこと有之哉も計られず候間豫め御承知置被下度候。

### 廣 告 料

普通廣告	1回1頁	35圓	1回半頁	20圓
指定廣告	裏表紙3面對向 及廣告初頁	1回1頁	40圓	
	裏表紙3面	1回1頁	70圓	
	色アート	1回1頁	60圓	

- 指定廣告は凡て1箇年繼續申込のものに限り取扱ふものとす
- 會員自身の廣告に對して總て上記料金の割引とす
- 同一廣告の連續掲載申込に對しては1年4回以上1割引とす
- 廣告に寫眞版又は木版等を挿入する場合は之に要する實費を別に申受くるものとす

# DOBOKU-GAKKWAISHI.

(JOURNAL OF THE CIVIL ENGINEERING SOCIETY.)

---

VOL. XXI, NO. 1, JANUARY, 1935.

---

## CONTENTS.

	Page
Proceedings of the Society.....	1
<b>Papers.</b>	
Method of Slope Distribution applied to Analysis of Statically Indeterminate Structures.	
<i>By Fukuhei Takabeya, Dr. Eng., Member.</i> .....	1
Design of Superstructure of Chikugo-Gawa Railway Bridge.	
<i>By Gonbei Inaba, C.E., Member.</i> .....	41
Concrete Pavement on the Slope.	
<i>By Toshio Sano, C.E., Member.</i> .....	53
The Application of the Theory of Influence Equations for the Analysis of Secondary Stresses in Truss Bridges.	
<i>By Tadafumi Mikuriya, M.S., Assoc. Member.</i> .....	79
Discussions.....	85
Notes on Matters of Interest.....	93
Patent News.....	133
Abstracts of Selected Articles.....	137

---

## OFFICE

No. 6, 3-CHOME, MARUNOUCHI, KOJIMACHI-KU, TOKYO.

## 寄稿に関する注意事項

- (1) 御寄稿は成るべく本會の原稿用紙を用ひ横書きとすること、原稿用紙は御請求次第御送り致します。
- (2) 御寄稿は止むを得ざる場合の外は成るべく本會の原稿用紙 180 枚（本會誌 30 頁）程度とされし、若し前記頁數を超過する場合は適宜其の程度に縮少を御願ひすることもあります。
- (3) 假名は平假名とし、數字はなるべくアラビア文字を用ひられたし。
- (4) 歐字は特に明瞭に認むること。  
n と u, u と v, r と v, a と o, r と y  
その他頭字と小字とを判然たらしむる事。
- (5) 原稿には必ず冒頭に英文表題及び邦文内容梗概並に著者の職名及び勤務所名を添附されたし。
- (6) 附圖附表に就ては次の各項に御注意ありたし。
  - (イ) 圖面はその儘縮寫し得る様にトレーシング・ペーパー、オイル・ペーパー、トレーシング・クロス等とすること。
  - (ロ) 凡て墨色を用ひインキ類或は彩色を施さざる事。
  - (ハ) 方眼紙は青野のものを用ひ（黄色、赤色の野は使用せざる事）縦横線を必要とする部分には豫め墨線にてこれを描き置かれたし。
  - (ニ) 圖表中の文字、數字は特に大きく肉太に書し縮寫したる後明瞭たらしむる事。
  - (ホ) 圖表類は製版の都合上可なり汚損するものと豫め御含み下されたし。
- (7) 寫眞は特に明瞭なるものを送られたし。
- (8) 論說報告、彙報、參考資料及び工事寫眞にして掲載せる分には謝禮を呈す。
- (9) 講演、論說報告の各欄に掲載の分には抜刷 20 部を寄稿者に贈呈するものとし、尙寄稿者の希望に依り實費にて御要求に應ずる事あるべし。

### 算式その他の記し方大體標準

- (1) 本文、文字間に算式を挿入する場合には次の如く記すこと。 $a/b$  と書き  $\frac{a}{b}$  を避けること。 $(a+b)/(c+d)$  と書き  $\frac{a+b}{c+d}$  を避けること。
- (2) 獨立したる列に算式を記す場合は次の如く記すこと。 $\frac{1}{3}x$  と書き  $\frac{x}{3}$  を避けること。 $\frac{1}{2}(a+b)$  と書き  $\frac{a+b}{2}$  を避けること。 $\frac{a}{b+c/d}$  と書き  $\frac{a}{b+c\frac{1}{d}}$  を避けること。
- (3) 千以上の數字は 53 247 000 の如く 3 つ單位に間隔をあけること。
- (4) 名數は次の如く記し括弧の中の様を書くことを避くること。  
83.4 尺（八丈三尺四寸）、7 吋（七吋）、35 錢（三十五錢）、13.56 圓（十三圓五十六錢）、1~4 時間（一乃至四時間）、88 326 ton（八萬八千三百二十六噸）、1931 年 1 月 1 日（千九百三十一年一月一日）、m（メートル）、m<sup>3</sup>（立方米）、cm（厘）。

## 新入會者にして既刊會誌希望者に告ぐ

本會々誌は新入會者には入會の月より以降發行に係るものより配布致すべきに付その以前の會誌御希望の場合は1部に付下記金額振替口座東京 16828 番に拂込用紙通信欄にその旨記入請求せられたし

### 残 部 内 譯

卷	號	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	金額(1部)
														(円)
5		*	*	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1.00
6		—	—	—	—	—	*	—	—	—	—	—	—	1.00
7		—	*	*	*	—	—	—	—	—	—	—	—	1.50
8		*	*	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2.00
9		*	*	*	—	*	*	—	—	—	—	—	—	2.00
10		—	*	*	*	*	*	—	—	—	—	—	—	2.00
11		—	*	*	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2.00
12		—	*	*	—	*	*	—	—	—	—	—	—	2.00
13		—	*	*	—	—	*	—	—	—	—	—	—	2.00
14		*	*	*	*	*	*	—	—	—	—	—	—	2.00
15		*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	1.00
16		*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	1.00
17		*	*	*	*	*	*	*	*	—	—	—	—	1.00
18		—	—	*	*	*	*	*	*	*	*	*	—	1.00
19		*	*	*	—	*	*	*	*	*	*	*	*	1.00
20		*	*	*	*	—	*	*	*	—	—	*	—	1.00

第 20 卷第 12 號 (創立 20 周年記念號) .....	1.50
東京市内外交通に關する調査書 .....	3.00
震害調査報告書(1, 2, 3) .....	18.00
應用力學聯合大會講演集 .....	1.00
鐵筋コンクリート標準示方書 .....	0.50
同上 解 說 .....	1.00
土木工學論文抄録 .....	3.50

(備考: \* は殘部有るもの)

### 本會會員轉居又は旅行の場合の注意

會員の住所の不明なるときは會誌の配布を始めその他通信上に差支候に付御轉居の際は至急明細に御通知相成度又御旅行等にて御不在となるも會費支辨には差支なき様御配慮相成たし

### 會 費 納 付 に 付 注 意

本會々費は下記の通りにして本會より發する振替集金に對し是非御支拂願度事若しこの集金書へ 15 日間中 3 回の取立金支拂なき場合は最寄郵便局に就き本會振替口座東京 16828 番に (拂込用紙通信欄に會費たる事を記入の事) 御拂込相成度尙會費一時納付の御豫定又はその他の都合により支拂なき場合は直に御通知相願度

朝鮮滿洲の一部及び青島等振替貯金を取扱はざる地に居住せらるゝ會員は納期の翌月末頃迄集金を受けるときは爲替その他の方法に依り直ちに御送金相成たし

會員種格	會 費 年 額	自 1 月 至 6 月	
		第 1 期分 8 月 徴 收	第 2 期分 9 月 徴 收
會 員	金 12 圓	金 6 圓	金 6 圓
准 員	金 9 圓	金 4 圓 50 錢	金 4 圓 50 錢
學 生 員	金 6 圓	金 3 圓	金 3 圓

新に入會したるものは月割算として入會の翌月集金を發す

### 會 費 未 納 に 付 注 意

會費は年額を第 1 期第 2 期に分割し毎年 3 月 9 月に振替貯金郵便として取立方を郵便局に依託の處往々集金郵便に對して放なく支拂を拒絶し尙他の方法に依りても送金なき者あれ共斯くては會費滞納者として遺憾ながら定款第 2 章第 14 條第 1 項に依り遂に會誌の配布を停止せらるゝに至るべく又本會に於ても未納金督促の手段一通ならず故に今後右様のことなき様特に御留意の上集金郵便に御拂込相成たし

### 會 誌 未 着 の 場 合 の 注 意

會誌は毎月 25 日 (印刷又は原稿等の都合に依り遅延する事あり) に發行し漏なく配布すべきに付未着の場合には一應本會に御照會相成たし從來往々發行後數ヶ月經過して照會せらるゝ向あるも斯くて殘部皆無となり遺憾ながら配布は不可能のことあるべきに付御留意相成たし